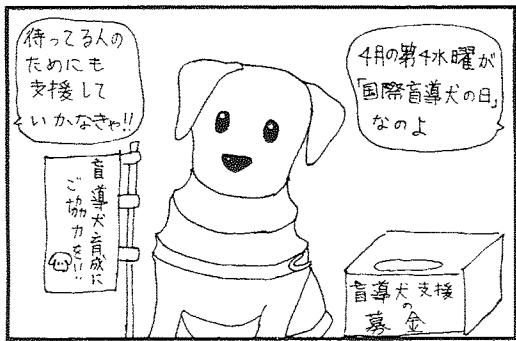
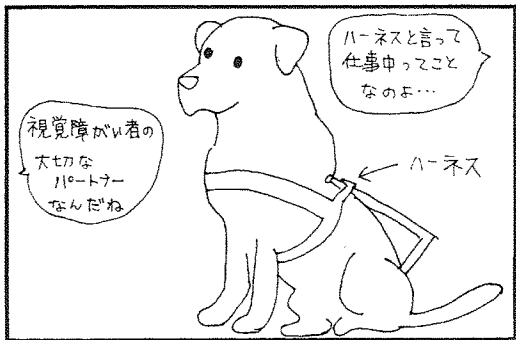
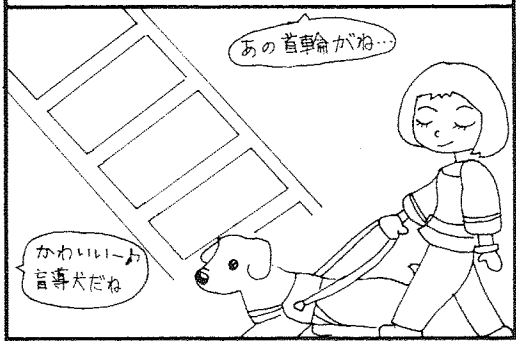
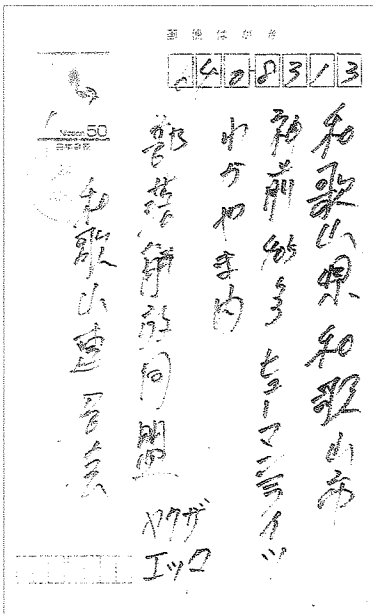


盲導犬について知ろう!!



またも県連事務所に差別はがきが... 各都府県連にも送りつけられる!



部落解放同盟が暴力団組織であることを知りショックを受けた。また徳島県で発生した海上自衛官変死事件の首謀者とされている人物が部落解放同盟の幹部の息子であることも初めて知った。貴族ら同種人種の王体はヤクザか?人の生き血を吸って生き延びる同種部落の人間はダニに等しい。家畜以下の存在に生きる価値はない。部落など存在しない所に部落を作り、差別されていないのに差別されていると大声で叫び、糾弾会で脅迫を行う様は補助金に群がるウジ虫である。下賤人の小森龍邦、松本龍などはコッタ・非人の血筋を引き継ぐ人種であり、委員長の組坂、国会議員の松岡、両名は美辞麗句で国民を欺く詐欺師である。早く国民の前に出てきて土下座しろ!4月に部落解放同盟が危険集団であるとの声明を発表することが予定されており、同協会の勇気ある行動に大いなる敬意を表するものである。

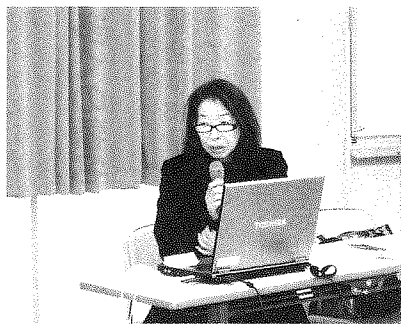
県連へ送られてきた差別はがき

今年の2月21日朝、県連事務所のポストに「差別はがき」が投函された。この差別はがきは北海道・函館局の消印で、内容は「函館消費者協会の●●●先生の講話で部落解放同盟が暴力組織であることを知った」「徳島県で発生した『海上自衛官変死事件』の首謀者は解放同盟幹部の息子であることを知った」「同種人種の正体はヤクザか」「人の生き血を吸って生き延びる同種部落の人間はダニに等しい」「家畜以下の存在に生きる価値はない」「部落など存在しないのに差別を利用して脅迫をする」「4月に部落解放同盟が危険集団であるとの声明が出る」といったことが

記載されていた。このような差別はがきは全国の解放同盟事務所に投函され、こうした内容をふまえて部落解放同盟中央本部が調査したものの、原因や関連するものがなく、内容については、部落や解放同盟組織に対する誹謗・中傷であることが明らかになった。

DVとは? 知ることはじめよう!

男女共生出前講座



DVについて語る高見陽子さん

3月24日杭の瀬文化会館で和歌山市主催の男女共生出前講座が開催され、市内から40人が参加した。講師は昨年全国女性集会で記念講演をしたウイメンズセンター大阪スタッフの高見陽子さんで、DVとは体への暴力だけでなく、心理的、感情的、言葉、性的な暴力、経済的な暴力などがあることが詳しく説明された。そして、阪南中央病院院内にあるSACHICOでの24時間体制の電話相談で

さらに、性暴力被害者に対し医療、法律、カウンセリング、など総合的にサポートする体制が整っていることが報告された。日本では性暴力被害者のための緊急支援体制は確立されていないため、国からの資金援助がなく運営は全て寄付金でおこなわれているため、参加者でカンパをした。

連載 (6)

「吾々は市政といかに闘うか」 —オール・ロマンス差別糾弾要項—

九条保健所が部落にたいして全く無関心であり、しかも、かゝる「何気ない」差別感にみちあふれつ、部落家庭の指導を行っている環境衛生指導員をもって、何気ない差別的保健指導を行っているとするれば、その保健所の全機構、同時に、かゝる保健所の運営を放任している、市の保健行政のあり方そのものが、正に、一大関心とならざるを得ない。

高山市長は、先づ第一に、差別者はS(個人名)一人だ、差別は彼の部落に対する無理解から起こっている、だから高山市政は、この差別問題とは関係がない、と言おうとしている。こういう考え方から出てくるものは、差別者だけ処分すれば、そこでこと足りるのではないか、という大変安易な解決方法である。つまり高山市長自身は差別感を持っていないから、高山市政とこの差別行為には関係がない、差別感S一人が持っているのだから、差別感もち、具体的に差別行為を起こした者だけが有罪で、その他の者は皆無罪であるという割り切った考え方であり、結論である。

「職員の中に、こういう差別行為をする人間がいるのはけしからぬ。文都法からいっても、京都がこんな汚濁な町で充ち充ちているように表現するのは、京都を入りにくい街のような印象をあたえる。そういう意味では私の意志に反するわけだけしからぬ。私は、よい生活環境の中